校長通信　寄稿

はじめまして、2016 年度卒業生の寺澤と申します。このような機会をいただいたことを大変光栄に思っております。私は現在大学院修士課程に在籍しており、来春から食品企業の商品開発研究職として働く予定です。改めて振り返ってみて、自分が鶴高を卒業してからの年月の流れの速さにとても驚いています。今回は僭越ながら在校生の皆さんに向けて寄稿文を書かせていただきたいと思います。

高校生活は私の人生における転換期であったといえます。鶴高の先生方との出会いを機に人として大きく成長することができたからです。それまで狭い考え方の世界に生き、そのせいで生きづらさを感じていた私が他者と関わることの楽しさ、有意義さに気が付くことができたのは、教師と生徒という関係である以前に一人の人間として私に真摯に向き合ってくださった先生方のおかげです。私はよく授業時間外に先生を訪ね、勉強の質問をするついでに人生の悩みや愚痴を聞いてもらっていました。私はこの時間が大好きでした。なぜなら、どんなときも嫌な顔をせずに話に耳を傾け、決して価値観を押し付けることはせず、それでも未熟な私が自分の力で未来を歩めるように大切なことをたくさん教えてもらえたからです。会話を通して自分にはなかった価値観を知ることはとても刺激的で、はじめて信頼できる大人に出会えたと感じました。そして、3 年間で学力だけでなく人間力をも高めることができた私は、大学で部活動に入ったり短期留学を経験したりと人と関わる機会を積極的にもち、自分の価値観をさらに広げることができました。高校入学当時の自分からは予想できないほどの変わりようです。このようなきっかけを与えてくれたのは鶴高であり、自分は本当に良い人たちに恵まれていたのだと感謝の気持ちでいっぱいです。

鶴高生活で得た「良い人生は良い人間関係で築かれる」という気づきは今の私の考え方や行動の指針になっています。良い人間関係とそこから得られたものは絶対的であると思うからです。時代が激しく移り変わり価値観も多様化していくなかで、絶対的なものこそが人生の財産になり得ると私は信じています。そして、良好な人間関係の実現のためには相手と対等であることが大切だと考えています。年齢や立場関係なく互いに敬意をもって接し、信頼、共感しあうことで真の関係性を築く――。これこそが Mark Twain のいう「愛し合う」ことなのではないでしょうか。

ぜひ在校生の皆さんも貴重な 3 年間という時間の中で友人や先生方と存分に関わり合ってください。他者との交流の中での気づきは広い価値観につながり、やがて皆さんの人生を彩ってくれるはずですよ。鶴高にはそのための環境が十分整っています！

最後に、皆さんが充実した高校生活と明るい未来を築かれることを願っています。